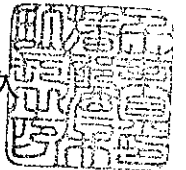




酒 ま 第 1 4 5 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

酒々井町長 小 坂 泰 久



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったこのことについて、
別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

千葉県 酒々井町

市町村道は、一般国道及び県道と比較して整備水準（改良率）が低く、地域の生活基盤の強化、良好な生活環境の確保等を進めるうえで隘路となっているが、その管理者である市町村が膨大な延長を抱える市町村道を一律に整備することは財政的に困難な状況にある。

このことから、選択と集中による事業実施の際には、費用対効果等により投資効果の高い場所を優先整備するだけでなく、地域格差を解消する観点等から広域・地方幹線道路から生活基盤である市町村道までバランスのとれた道路整備を行うことが重要である。

更に、道路施設の老朽化の進行による維持補修費の増大により、適切な維持管理を行うことが困難な状況となっていることから、橋梁に焦点を絞らずに舗装補修についても地域の実情に応じた補助制度の拡充や十分な財源の確保をお願いします。

特に、近年の急速な高齢化の進展を踏まえ、学童、高齢者など誰もが安心して歩ける歩行空間の整備の充実、適切な道路管理に係る十分な財政的な支援措置をお願いするとともに、道路整備事業のスピードアップを図り、事業効果の早期発現を徹底していただきたい。

また、当町の中心市街地は、ＪＲ酒々井駅、京成酒々井駅及び国道５１号の交通結節点に位置しているが、反面各市街地をネットワークする幹線道路が未整備のままとなっている。このことから、今後の区画整理事業による人口増や企業進出による新たな交通量への対応、さらには中心市街地の活性化を図るための面的整備に対する施策の充実をお願いいたします。

② - 1 地域の現状と抱える課題

千葉県 酒々井町

○現状

当町は、首都圏50km圏内という立地条件から、昭和40年代後半から昭和50年代にかけ宅地造成とともに、人口が急増したが、宅地造成から30年が経過し、その時代の人たちが一斉に定年を迎え高齢化が進んでいる状況にある。また、その時期に合わせて整備された町内の道路舗装も、簡易舗装による道路整備が多く、規格改良された道路が少ない状況である。これらの道路の整備、維持管理や交通安全施設の施設維持費に費やす費用が増大する中、財政的に十分な投資ができない状況にある。

一方、幹線道路について、国道51号の市街地は4車線化されたところだが、その区域以外は2車線で歩道の整備も十分でない状況で、上下線で渋滞が発生している。また、国道296号についても、部分的な整備はできているものの、従来からの道路については、片側歩道のままとなっており、通学路としては危険な状況にあり、県道、一般地方道は、歩道の整備、視距改良を必要とする箇所が多く見受けられる。

○課題

【道路整備】

町域内には、東関東自動車道、国道５１号、国道２９６号の３本の広域幹線道路が縦貫している他、これらを補完する主要地方道が２路線、一般県道が１路線通過及び交差しており、広域交通のネットワークとしては概ね確立されている。

しかしながら、国道５１号以外の路線については、線形不良や幅員不足の箇所が多くみられ、スムーズな交通流の確保に向けて交通量の強化が望まれている。

なお、佐倉方面、成田方面といった東西方向には幹線道路が配置されているものの、印旛方面あるいは八街・富里方面といった東西方向の連絡機能が脆弱である。

また、東関東自動車道について、町内を横断しているものの、高速道路利用のためには国道５１号により成田方面もしくは佐倉方面からの利用となる。

【交通安全】

町内の国県道及び町道の歩道設置延長は、約１２％となっており、特に小学校の通学路におけるそれは町全体での歩道設置率と比較すると若干高いものの約３５％に止まっていることから、さらなる歩道整備が望まれる。（通学路総延長３１．１ｋｍに対し１０．９ｋｍ）

【道路整備】

現在町では、活力あるまちづくりを推進するための町の核となる千葉県施行（平成１７年度から着手）の（仮）酒々井インターチェンジ整備を実施しており、これに合わせ町が実施しておりますインターチェンジアkses道路等の整備を進めている。

これにより、都市再生機構が進める南部土地区画整理事業や、既存の墨工業団地への連携が可能になり、企業の立地が進むことが想定されるが、これらの事業に当たっては、町財政が極めて厳しい中で難しい状況となっている。

また、町中心部からの通過交通の削減の意味合いを含め、現状の市街地を取り囲むような環状道路の形状も求められる。

町域内のスムーズな交通流の確保に向けては、上記のような道路整備の充実に努めなければならない

【交通安全】

前述のように高齢化が加速されることにより、歩道等の段差及び急な勾配を改良することによるバリアフリー化や、道路反射鏡の設置による視認性の強化など、交通弱者への対策が重要となる。歩道整備率を向上させ、安全な歩行空間を確保するため、土地所有者等の理解を得ながら歩道整備を推進し、歩行者の安全と車両通行の円滑化を図る必要がある。

② - 1 地域の現状と抱える課題

千葉県 酒々井町

【維持管理】

町内を縦貫している国道51号及び国道296号は、朝夕の通勤時間帯の交通渋滞が激しいことから、地域住民の生活道路である町道を抜け道として通過する交通量が多く、舗装寿命が短縮化されている状況である。

町では昭和40年代後半の宅地造成と同時期に整備された町内道路についても、舗装工事を進めてきたことから、町道の舗装率は高いものの舗装の老朽化が同時進行し、そのため舗装打ち換え等の対応が追いついていかず、道路瑕疵等の問題も抱えている。

また、町道橋については、施工時期及び構造等が判明できない橋梁が多く、全32橋のうち東関東自動車道やJRの架橋が5橋となっている。

【維持管理】

国道の渋滞緩和の対策を促進し、町道への通過交通を削減することが重要である。

また、町道の日常の維持管理や修繕・更新のための舗装修繕計画書の作成を行い、計画的に舗装の打ち替え等を行っていく必要がある。

交通量の増加、車両の大型化等のため、定期的な橋梁調査・点検による予防保全を実施することにより、橋梁の超寿命化やコスト削減を図ることが重要である。

② - 2 地域の目指すべき将来像

千葉県 酒々井町

当町は、歴史と伝統に培われ、豊かな美しい自然に恵まれた街です。位置的にも首都圏にあり、鉄道や道路幹線など都心との交通アクセスの基盤が整備されていることから、首都圏のベッドタウン、住宅都市として発展してきたところである。

町を更に活性化するには、定住人口を確保し若者と高齢者が協働する街として、また市街地を取り囲む自然環境との調和では、本佐倉城址跡の整備、自立性の高い都市づくりに向けた都市機能の誘導をする酒々井インター（整備中）を取り巻く、インターから国道296号を横断し国道51号までの整備などの道路網整備、国道51号、国道296号また一般県道、主要地方道など既設道路の歩道整備、バリアフリー化の促進を図ることが重要と考えている。

このように高速道路から町道までバランスのとれた道路ネットワークの整備により地域活力の向上を図り、機能的で快適な都市環境や町の活気とうるおいに満ちたまちづくりを目指していきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

千葉県 酒々井町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	(仮)酒々井インターチェンジの早期完成	企業立地を始めとした地域活性化や雇用創出など、町内全域への経済波及効果や税収の増加による自主財源の安定確保	
計画的・効率的な維持管理や更新の推進	東関東自動車道（3橋）、ＪＲ橋（2橋）などの橋梁耐震化、町道の舗装修繕の推進	国際ゲートウェイ機能の維持、災害時の緊急輸送路としての機能確保、安全な道路環境の構築	
総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	歩道整備率の向上及び段差や急勾配の改良によるバリアフリー化の推進	子供や高齢者に対し、安全な歩行空間を提供し、住みよいまちづくりに貢献	